

Morgan Stanley

For Immediate Release

モルガン・スタンレー、日本において持株会社制に移行 日本における主たる不動産業務を統合

[東京、2007年10月22日] モルガン・スタンレー(NYSE: MS)は本日、日本のグループ関連各社を、新たに設立した日本法人「モルガン・スタンレー・ホールディングス株式会社」(以下、持株会社)の傘下に置くと発表した。

2007年12月1日より導入される新たな体制では、持株会社が日本における主要なグループ会社を統治および監督することとなる。持株会社の傘下には、モルガン・スタンレー証券株式会社、モルガン・スタンレー・アセット・マネジメント投信株式会社、株式会社パノラマ・ホスピタリティ、ならびにジパング住宅ローン株式会社が入ることとなる。同様に、株式会社モルガン・スタンレー・プロパティーズ・ジャパン(後述のように、モルガン・スタンレーの主たる不動産投資・管理業務を統合し「モルガン・スタンレー・キャピタル株式会社」として名称を変更予定)も持株会社の傘下に入る。

モルガン・スタンレー会長兼CEOのジョン J. マックは次のように述べている。「この持株会社の設立はモルガン・スタンレーの日本におけるコミットメントの強さを反映している。モルガン・スタンレーにとって日本の金融市場の重要性が増す中、この新体制は同社の地位を高めることに資するであろう。」

この度の持株会社制度の導入は、モルガン・スタンレーの日本での継続的な成長を受けたものである。1970年にわずか社員2名の東京駐在員事務所から出発したモルガン・スタンレーは、今日では1,600名を超えるプロフェッショナルな人員を擁するまでに成長している。この新体制は日本におけるモルガン・スタンレーのコーポレート・ガバナンスを向上させ、多様化の進む国内業務の管理体制を更に強化することとなる。

モルガン・スタンレー証券の代表取締役社長であり、新持株会社の代表取締役兼CEOであるジョナサン・キンドレッドは次のように述べている。「この新体制によってモルガン・スタンレーは、日本市場で最良のサービスを提供する金融機関としての地位を固めることが可能になる。」

モルガン・スタンレーは今後も日本において広範囲にわたる業務の拡大を目指している。その一例として、今年初めに発表されたモルガン・スタンレー不動産部門の世界的な業務再編策に沿う形で、日本における主たる不動産投資・管理業務を「モルガン・スタンレー・キャピタル株式会社」に統合することとした。このように経営資源やサービスを集中させることで、付加価値の高い商品を提供し、より緊密なクライアントとの信頼関係を構築することができる。

モルガン・スタンレー・キャピタル株式会社の代表取締役社長兼CEOに就任するフレッド・シュミットは次のようにコメントしている。「モルガン・スタンレーは日本の不動産市場で成長を続けられると確信している。この新体制によって、我々はクライアントや投資家にとって最良のサービスを提供できると考えている。」

モルガン・スタンレー・ホールディングス株式会社の概要

英文名称： Morgan Stanley Japan Holdings Co., Ltd.

代表取締役兼 CEO： ジョナサン・キンドレッド

所在地： 東京都渋谷区恵比寿 4-20-3 恵比寿ガーデンプレイスタワー

モルガン・スタンレー・キャピタル株式会社の概要

英文名称： Morgan Stanley Capital K.K.

代表取締役社長兼 CEO： フレッド・シュミット

所在地： 東京都渋谷区恵比寿 4-20-3 恵比寿ガーデンプレイスタワー

モルガン・スタンレーについて

モルガン・スタンレーは、投資銀行、証券、資産運用、ウェルス・マネジメント事業において多岐にわたるサービスを提供する世界有数の総合金融サービス企業である。世界 32 カ国にある 600 以上のオフィスを通じて、法人、政府、機関投資家、個人に質の高い金融商品およびサービスを提供している。日本におけるモルガン・スタンレーに関する詳細：www.morganstanley.co.jp

###